

佐賀大学教育学部  
附属小学校  
教育研究発表会  
2023

## 【当日資料】

令和5年7月24日（月）

### 1. 研究について

考え、表現し伝え合う  
外国語教育の授業づくり



### 2. 本单元について

公開授業Ⅰ

外国語科（6年生）

指導者：松下大介

单元名

比べてみよう、伝えてみよう

### 2. 本单元について

公開授業Ⅱ

外国語活動（4年生）

指導者：小林佳愛

单元名

附属小学校の魅力を伝えよう



### 目次

1. 研究について
2. 本单元について
  - (1) 外国語科（6年生）
  - (2) 外国語活動（4年生）
3. 実践事例
  - (1) 外国語活動（3年生）
  - (2) 外国語活動（4年生）
  - (3) 外国語科（5年生）
  - (4) 外国語科（6年生）

佐賀大学教育学部  
附属小学校

松下大介  
小林佳愛

## 1. 研究について

○研究のテーマについて

外国語部小中共通テーマ：

自ら学び伝え合う英語学習者の育成

【小学校】

慣れ親しんだ語彙・表現を使って、身近で簡単な事柄について自分の思いや考えを、内容や構成などを工夫しながら相手に分かりやすく表現しようとする能力の育成



本校小学校外国語部会が考える外国語教育における「深い学び」とは…  
言語活動を通して、伝えたい内容を既習語句や表現を使って  
どのように伝えるのか、どのように伝えると相手に分かりやすく  
伝わるのか考え、表現し伝え合うこと



小学校外国語部における

研究テーマ：

考え、表現し伝え合う外国語教育の授業づくり

【柱1】 Small Talk

- ①既習表現を繰り返し使用し、慣れ親しみや定着を図ること
- ②対話を続けるための基本的な表現や続け方の指導をすること

【柱2】 中間指導

- ①コミュニケーションの目的や本時のねらいを確認する
- ②児童の疑問点・困り感を取り上げて、共有・解決する
- ③よいコミュニケーションの様子を共有する



「T2R サイクル」

Small Talk と中間指導という手立てを基に、どのように技能面の向上や深い学びに向かっているのかを探る学びのサイクル。

(1) Small Talk

提案①：計画的・系統的なSmall Talk

Small Talkの積み重ね

対話を続けるための基本的な表現や続け方の定着

目的、場面、状況等に応じて使えるようになれば、その後の言語活動が充実し、自分の考えや気持ちを表現することができるようになる。

(2) 中間指導

提案②：中間指導の工夫

児童と一緒に考えて共有する

- ・思考を伴う言語活動の積み重ねが可能になる。
- ・児童が言語活動の目的や場面を意識して伝え合うことができる
- ・既習の表現を必要に応じて活用できる。
- ・他者とのつながりを意識し、考えて表現し伝えることができるようになる。

(3) T2R サイクル

一方方向の過程ではなく、単元や1単位時間の中で、何度も行き来したりスパイラル的に循環したりする活動のサイクル



図1 単元における「T2R サイクル」の例

## 第6学年2組外国語科

### 単元名 How's your Summer Vacation? ～比べてみよう、伝えてみよう～

(NEW HORIZON Elementary6 Unit4参照)

#### I 単元づくりについて

##### 1 文脈と状況を大切に単元づくり

今年5月にSRU (Slippery Rock University of Pennsylvania) から大学生が本校を訪問した。彼らは日本の小学校の様子を見聞する目的で来校し、児童と交流を行った。児童はどのような活動がよいかグループごとに考え、自己紹介をしたり、独楽や福笑いなどの日本の伝統的な遊びを説明して一緒に遊んだりしていた。本単元では、この体験活動を生かして、一緒に交流したSRUの大学生にアメリカの夏休みの過ごし方を教えてもらい、日本の小学生の夏休みの過ごし方を教えて欲しいというメールをもらった。本単元は、そのメールの内容を聞いたり読んだりして、日本の夏休みの過ごし方を伝えたいという必然性を伴う単元であり、SRUの大学生とのつながりや日本と外国の文化の違いに気付くことができる単元であると考え。そして、ALTもアメリカに帰国することから、身近な外国の人の夏休みの過ごし方にも関心をもって伝え合うことができ、比べたい、知りたいという必然性も伴うと考える。更に、SRUの大学生やALTなどの外国の文化を知るだけでなく、いつも顔を合わせる友達と夏休みの過ごし方について伝え合ったり比べたりすることができる。このことから、児童はいろいろな他者との文化の違いに関心をもち、違いの気付くことができると期待する。そこで、まず前述したようにSRUの大学生やALTの夏休みについてのメールやビデオメッセージを見聞きし、自分の夏休みについて知らせようという目的を共有し、夏休み後にSRUの大学生に手紙を返信したり、ALTに伝えたりするという場面を設定し、これをパフォーマンス課題とした。このパフォーマンス課題を常に意識して、単元のゴールに向かって、みんなで何とかして課題を解決する状況を作ったり、それに向かって取り組んだりする姿に期待する。

##### 2 本学級の児童の実態

本学級の児童(34名:調査実施33名、欠席1名)について、指導案に記載しているそれぞれのデータについては、以下の通りである。

- 各単元の中心となるやり取り 88% (30名) の児童ができています。

##### 【意識調査】

- 32% (11名) の児童が「書くこと」を意識したり関心をもったりして学習に取り組んでいる(図2)。

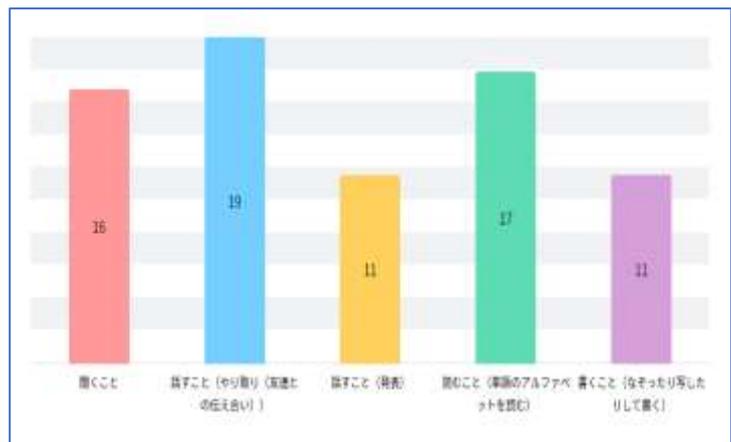


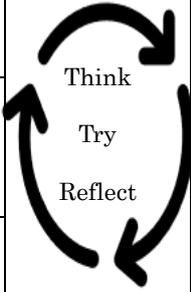
図2 各領域に対する児童の意識  
(質問)「外国語の授業・学習で気を付けていることは何ですか？」(複数回答可)

【紙面テスト】 表1 市販テストの分析:「Unit 1 This is me!」の結果から

領域	主な内容	期待得点(点)	平均得点(点)	
「聞くこと」	・単語を聞いて合致する絵を選択する。 ・まとまりのある内容を聞いて、合致する絵を選択する。	120/150	142.4/150	107.6/110
「読むこと」	・文字を見て、①dog ②May と合致する絵を選択する。			20.0/20
「書くこと」	・自分の名前を書き、誕生日を提示されている資料から選んで書き写す。			14.8/20

##### 3 単元計画(全7時間)

T2R サイクル	目標	主な活動	評価の観点			評価規準
			知	思	主	

1		<ul style="list-style-type: none"> <li>SRUの大学生の手紙を見聞きすることを通して、単元の見直しをもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRUの大学生の手紙を基に、パフォーマンス課題を設定し、学習計画を立てる。</li> </ul>				※記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【パフォーマンス課題①】 先日、交流したアメリカの大学生からメールが来ました。みんながどんな夏休みを過ごしたか知りたいそうです。そこで、夏休みについて、いろいろな人と伝え合ったり比べたりしてみましょう。どんなことに気付くことができるでしょうか？</p> </div>							
2 (本時)	<b>Think</b> ↓↑ <b>Try</b> ↓ <b>Reflect</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みについて、内容を考えたり相手に伝えるように工夫したりしながら紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Small Talk 「食べたいもの」についてペアで伝え合う。</li> <li>SRUの大学生や友達、ALTの夏休みの過ごし方について話を聞いたり尋ねたりする。</li> </ul>	や	や		<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みについて、内容を考えたり相手に伝えるように工夫したりしながら紹介している。</li> <li>夏休みについて、内容を考えたり相手に伝えるように工夫したりしながら紹介しようとしている。</li> </ul>
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の表現を聞いて現在形との表現の違いを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形の表記を知り、現在形との表現の違いに気付く。</li> <li>Small Talk 「夏休みに食べたもの」についてペアで伝え合う。</li> </ul>	読			<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の表現を聞いて現在形との表現の違いを理解している。</li> </ul>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形を使って伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRUの大学生や友達、ALTの夏休みの過ごし方について話を聞いたり尋ねたりする。</li> </ul>	や	や	や	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去形を使って伝え合うことができる。</li> <li>過去形を使って、自分の夏休みについて伝え合っている。</li> <li>過去形を使って、自分の夏休みについて伝え合おうとしている。</li> </ul>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>伝え合った内容や手紙の内容から、動詞の現在形と過去形の違いを理解する。語句や基本的な表現を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国と日本の夏休みの過ごし方を比べ、文化の違いに気付く。</li> </ul>		読	読	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞の現在形と過去形の違いを理解する。語句や基本的な表現を理解している。</li> <li>自分のことについて、動作と表された文字について関連させて読んでいる。</li> <li>自分のことについて、動作と表された文字について関連させて読もうとしている。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことについて、動作と表された文字について関連させて読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRUの大学生に返事を書く。</li> </ul>	書	読	書	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことについて、動作と表された文字について関連させて読もうとしている。</li> </ul>

## II 授業の実際と次時以降の活動について

### 1 本時までの活動について

#### 1 時目

まずは、SRUの大学生からメールが来たことを伝え、内容を話した。問題提起をして本単元のパフォーマンス課題の設定へとつなげた。その後、「教師同士のやり取りを聞く→児童に問いかける」という Small Talk を行った。内容としては、図3のようにHRTとALTが一般的な夏休みについて、“Do you have a ~?”や“Can you ~?”を用いて教師同士がやり取りし、児童に問いかけた。児童は、アメリカの一般的な夏休みの様子を基に、日本の夏休みの様子を振り返るようにすることで、次時の活動につながるようにした。

HRT : (ALT)先生, in America, what do you spend in summer vacation?  
 ALT : In America, we usually travel other places.  
 HRT : Please tell us any examples?  
 ALT :  
 HRT : Great!  
 児童 : いいなあ…  
 ALT : How about you? In Japan, what do you spend?

図3 Small Talk (1時目)のスク립ト

### 2 本時について

#### 2 時目

本時については、夏休み後に、過ごし方について過去形を用いる単元であり、現在形と過去形の表現の違いに気付きやすくなるように、夏休み前の第一次で、既習の現在形を使って聞いたり伝えたりする活動を設定した。本時は、教科書にはない時間である。その設定理由として、これまで現在形のみを使って自分の考えや気持ちを表現してきた。本単元で初めて過去形を学習する。過去形には、-ed

を単に付ける規則動詞と形が変わる不規則動詞がある。どちらも、児童にとっては難しい表現である  
と考える。そこで、まずは、表現（音）が変わったことを認識し、「これまでとは違う」と意識して取  
り組むと伝えやすくなるのではないかと考えた。また、新出する過去形を使った活動に丁寧に取  
組むことができるのではないかと考えて設定した。この理由から、指導案にも記述した通り、本時の活  
動を設定し、**want to**～などの既習表現を使って夏休みへの期待や楽しみを友達と共有することで、自  
他の夏休みの情報を聞いたり伝えたりして整理できるようにしたいと考えた。活動については、現在  
形では表現できない夏休み後の伝え合い活動において必然性をもった活動になるように考えた。

### 3 次時以降の活動について

2時目以降は、以下のような学習活動を設定する予定である。

#### 3時目

「教師同士のやり取りを聞く→児童に問いかける」**Small Talk** で聞き覚えのない英語を聞いた児童  
の戸惑いから本時のめあてを確認する。その後、前日にしたことについて過去形を使って伝え合うよ  
うにする。児童から困り感が出た時点で中間指導を取り入れて音声中心に過去形に慣れ親しむよ  
うにする。その後、**Hint Quiz** の中で伝え合う際に話したり聞いたりするような語句について慣れ親しま  
せるようにする。そして、その後、**Small Talk** の内容を使い、実際に夏休みにしたことについて、視  
覚的な情報も使いながらゆっくりとどのような内容をどう表現するか（していたか）について友達と  
伝え合う活動を設定する。

#### 4時目

3時目の中心活動のやり取りについて、更に内容を深めるために、反応するだけでなく感想を取  
り入れたやり取りを設定する。そうすることで、夏休みについて友達と話すことができたことよ  
り感じるのではないかと期待する。

#### 5時目

世界とのつながりにも目を向ける。**Let's Listen**②やSRUの大学生、ALTの夏休みの過ごし方  
について聞くことで、異文化理解にもつながり世界（外国）にも関心を持つようになることをねら  
って設定する。

#### 6時目

SRUの大学生へ返事を書き、それを友達と見せ合う。そして、友達の夏休みの過ごし方について  
聞いたり読んだりしたことから、自分の来年の夏休みにしたいことを考え、伝え合う活動を行う。

## III 研究との関わり

本単元の学習活動を通して、深い学びを実現する一途となるようにしたい。そこで、**Small Talk** と  
中間指導を手立てとし、**T2R** サイクルに沿って単元を見ていく。

### 1 T2Rサイクル

本単元を、**T2R** サイクル（図4）に当てはめて考えると、1時目から3時目まで、特に1、2時  
目はパフォーマンス課題の解決に向けて、自分の夏休みについてどんな情報を伝えるか、自分の夏  
休みの計画や夏休みにしたいことをどう表現するか、そのためにどんな言語材料を使えるか、また  
は必要か、どうすれば伝わりやすいかということを考えながら活動に取り組んでいく（**Think**）。  
そして、実際にSRUの大学生のメールやALTのメッセージの表現を参考に、友達に想定した翌  
日から夏休みを迎えるという状況の中で、これまで学んだことを試しながら、言語活動を行う  
（**Try**）。そして、実際に伝え合う中で自分の夏休みの過ごし方を見つめる（**Reflect**）。2時目  
の一単位時間を**T2R** サイクルに当てはめると図4のようになる。3時目では、夏休みを振り返り、  
振り返る中で過去形の表現と出会い、どう表現すると夏休みにしたことを伝えられるかについて教  
師同士の対話を聞いて気付き、夏休みについてどのように情報を伝えられるか考えたり表現に慣れ  
親しんだりする（**Think・Reflect**）。

このサイクルは一方方向の過程ではなく、単元や1単位時間の中で、何度も行き来したりスパイ  
ラル的に循環したりすると考えている。本単元では、教師が常に1時目に共有したパフォーマンス  
課題を意識させながら、単元を通して活動に取り組ませるようにすること、そして、3時目以降に  
出会う過去形やこれまで学習してきた表現を4時目以降の活動に生かす。もし、表現の慣れ親し  
みが足りていないと判断した場合には、何度も繰り返して使用する場面を設定する。

4時目には、実際にSRUの大学生やALTの夏休みの過ごし方を聞いたり、友達と夏休みにし  
たことを伝え合ったりして、他者の過ごし方を知り、自分の過ごし方と比べるようにする。5・6  
時目では、単元のゴールの活動に取り組む。4時目で自他を比べたことから新たな発見や再発見で  
きるようにし、自他の文化の違いに気付くことができるようにする（**Think・Try・Reflect**）。

単元を通して、中間指導はICTを活用しながら全体で行い、児童の様子を視聴したり、どんな内容を伝えるのか確認したりする。また、ALTに言い方を確認して繰り返し練習を行う。



図4 本単元における「T2Rサイクル」の運用



図5 本時（2時目）における「T2Rサイクル」の運用

## 2 Small Talk

伝える活動を広げ深めるための手立ての1つとして取り入れる。本単元では、①want to~などの既習表現や過去形を繰り返し使用し、実際にしたことを表す表現の気付きと定着を図ること、②“I see.”, “It’s good.”等の日常的に使用している反応と“It was ~.”の感想を伝える表現、更にジェスチャーを用いた対話の続け方の定着を図ることを目的とする。

## 3 中間指導

2つ目の手立てとして、中間指導を設定する。本単元における中間指導の主な内容としては、①夏休みの計画や過ごしたことにおけるやり取りの態度面、②やり取りの様子（表現や反応）、③児童の活動や語彙、表現への戸惑いを解消することを目的として取り入れることを考えている。

①コミュニケーションの目的や本時のねらいを確認すること、②児童の疑問点・困り感を取り上げて、共有・解決すること、③よいコミュニケーションの様子を共有し、外国語教育の目標に向かわせること、である。

## 第4学年3組外国語活動

単元名 This is my favorite place. ～附属小学校の魅力を伝えよう！～

(Let's Try!2 Unit8参照)

### I 単元づくりについて

#### 1 文脈と状況を大切に単元づくり

本学級では、今年5月にSRU (Slippery Rock University of Pennsylvania) の大学生と交流する機会があった。児童はこの交流会に向け、「大学生を誘って、一緒に好きな遊びで遊ぶ」という目的をもち、「遊び」をテーマにした学習に取り組んだ (Let's Try! 2 Unit 2 参照)。交流会では好きな遊びを大学生に伝え、児童自ら大学生を誘って一緒に遊ぶことができた。児童は、英語で自分の考えや気持ちを表現し、それが相手に伝わった経験から大きな達成感を得ることができた。

本単元の導入では、交流会について振り返り、自身のコミュニケーションのあり方について見直す機会をもつ。学校内を案内する場面の中で、相手への配慮が不十分であったことに気付かせたい。ここをスタートに、「次はもっと上手に案内したい」「SRUの大学生に、附属小学校のことについて詳しく伝えたい」という児童の思いを引き出し、ゴールの設定へとつなげていく。SRUの大学生に本校の魅力を伝えるという目的意識・相手意識をもち、相手に分かりやすいよう工夫して伝えようとする児童の姿を目指し、単元づくりを行った。

#### 2 本学級の児童の実態

本学級の児童 (35名：調査実施34名、欠席1名) へ意識調査 (表2・図6) を行った。

質問	回答 (名)			
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
先生や友達とのやり取りを通して、先生や友達、外国のことをもっと知りたいと思いますか？	25	9	0	0
先生や友達とのやり取りを通して、もっと相手に自分のことを話したい、知ってもらいたいと思いますか？	21	10	1	2

表2 外国語活動に関する意識調査

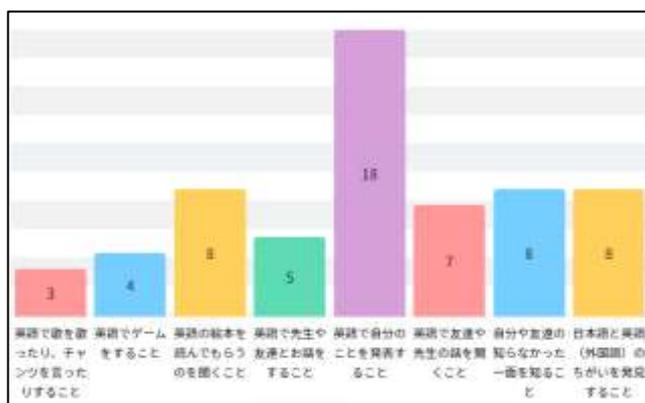


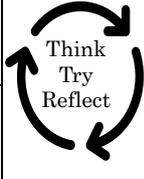
図6 「外国語活動の学習で、むずかしいな、苦手だな、と思うことはどんなことですか？」

意識調査の結果、本学級の児童のほとんどが、友達や教師とやり取りをすることを通して、相手のことをもっと知りたい、または自分のことを知ってもらいたいという思いをもち、外国語活動の学習に取り組んでいることが分かる (表2)。

課題としては、英語で自分のことを発表することに関して苦手意識をもっている児童が多いことが挙げられる (図6)。本単元の終末には、自分のお気に入りの場所について話すこと (発表) の場を設定している。適切な場面で必要な手立てを打つことができるようにしたい。

#### 3 単元計画 (全7時間)

	T2R サイクル	目標	主な活動	評価の観点			評価規準	
				知	思	主		
1	Think ↓↑ Try ↓ Reflect	・交流会を振り返り、課題を見つける。単元のゴールを決める	○SRUの大学生との交流会を想起し、感想を伝え合う。 ○「SRUの大学生に附属小学校の魅力を伝える」という単元のゴールを決める。単元のゴールへの見通しをもつ。	知	思	主	※ 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。	
2		・学校内の教室や場所、道案内の指示を表す語彙に慣れ親しむ。	○3つのヒントを聞き、学校内のどの場所について話しているか考える。 ○学校内の教室や場所、道案内のための指示を表す英語表現に慣れ親しむ。				聞	・学校の教室や各場所の名称、道案内をするために必要な指示に関する表現に慣れ親しんでいる。 ・自分のお気に入りの場所についての教師の話聞いて、その概要を捉えている。
3		・お気に入りの場所とその理由について、伝える内容を考える。	○色々な教科の教師のお気に入りの場所についての話を反応しながら聞く。Small Talk ○自分のお気に入りの場所とそ				表	

			の理由について考える。					
4 (本時)		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に分かりやすいよう工夫しながら、お気に入りの場所について伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任のお気に入りの場所についての話を反応しながら聞く。<b>Small Talk</b></li> <li>○お気に入りの場所について、友達と伝え合う。</li> </ul>			や	や	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SRUの大学に附属小学校の魅力を伝えるために、自分のお気に入りの場所とその理由について、相手に分かりやすいよう工夫しながら伝え合っている。</li> </ul>
5 6		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に分かりやすいよう工夫しながら、お気に入りの場所について紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SRUの大学生に附属小学校の魅力を伝えるためのビデオレターを作る。</li> </ul>			発	発	発
7	Reflect	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手から届いたビデオレターを視聴し、日本と外国の違いに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SRUの大学から届いた、お気に入りの場所についてのビデオレターを視聴し、気付いたことを話し合う。</li> </ul>			聞	聞	

## II 授業の実際と次時以降の活動について

### 1 本時までの活動について

#### 1 時目

本単元の導入では、5月の交流会について改めて振り返った。児童にとって充実感のある交流会であったが、SRUの大学生にとってはどうであったか、という視点で考えたことを共有した。「遊びに誘うことはうまくいった。遊びもすごく楽しかった！…でも、大学生を運動場に連れていくまではどうだったかな?」「大学生を置いて行ってしまった」「そういえば、教室もどこに行けばいいか分からなくて困っていたみたいだった」児童は、学校内を案内する場面において課題があったことに気づき、もっと附属小のことに詳しく伝えたいという思いを次々に口にしていた。「次は小学校の中を詳しく教えたい」「いろいろな教室の中や、運動場にある遊具のことを紹介したい」という言葉から、本単元のゴール「附属小学校のいいところが伝わるビデオレターを作ろう」を設定した。

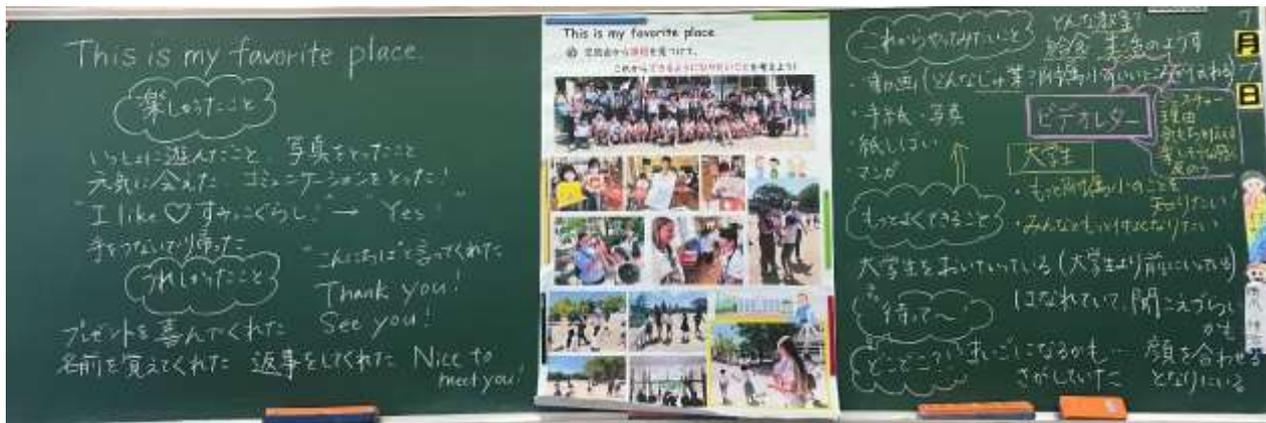


図7 ゴールの設定時（1時目）の板書

#### 2 時目

児童が学校内の場所や教室の名称に慣れ親しむことを目標に、活動を仕組んだ。複数の写真を見て学校内のどの場所か考え、その名称に慣れ親しむ3ヒントクイズ、児童が普段の学校生活で行き来する教室やよく遊んでいる場所など、児童の関心に沿った言語材料を選んで提示した。

クイズの中では、“This is～.” “I like～.”などの表現を繰り返し用いて、その場所のよさや機能について、教科名や遊びの言い方などを使って言い表すことができるようにした。



図8 2時目 3ヒントクイズで使用したスライド（一部抜粋）

本校の様々な教室や場所について、児童とやり取りをする形態でSmall Talkを行った。目的は、場所の名称や道案内の指示についての語彙や表現への慣れ親しみを図ること、既習表現を想起しながら会話を続けることである。必要な表現に慣れ親しんだ後、自分の好きな場所について児童同士で伝え合う活動を取り入れた。児童は既習表現 “I like～.” などを用いながら、英語で自分の考えを伝えようとしていた。

### 3時目

ここでの Small Talk は、「私のお気に入り」「私の一番好きな」を表す“my favorite”に出合わせることである。これまで繰り返し慣れ親しんできた表現“I like～.”との違いに気付くことができるように、教師同士（HRT と ALT）のやり取りを聞く形態で取り入れた。

さらに、本校のいろいろな教師がお気に入りの場所について紹介している映像を見せ、気付きを話し合うことで、何度も耳にする“my favorite”の意味を捉えたり、話の大まかな内容や流れを掴んだりすることができるようにした。



図9 自分のお気に入りの場所について整理する

次時へつなげるために、教師の伝え方の良かったところについて問い、伝え方の工夫に関する児童の気付きを引き出した。SRUの大学生へ送るビデオレターの内容に見通しをもった後、自分のお気に入りの場所について伝える内容を考える活動を行った。児童がビデオレターで伝えたい内容を考える際には、お気に入りの場所の写真とその理由を、イラストや写真で図に表し、整理できるようにした（図9）。

## 2 本時について

本時は、ビデオレター作成に向けて、自分のお気に入りの場所とその理由について友達と伝え合う活動を行う。前時までに慣れ親しんだ語彙や表現を用いて、実際のやり取りで伝えたい内容が伝わるか試す場面では、伝え方の工夫を生かし、自身のコミュニケーションをよりよくしようとする児童の姿を期待する。

## 3 次時以降の活動について

5時目以降は、以下のような学習活動を設定する予定である。

**5・6時目** SRUの大学生へ送るビデオレターを作成する活動を行う。「SRUの大学へ」という相手意識、「附属小学校の魅力伝える」という目的意識を明確にした上で作成を始めるようにする。ビデオレターで自分のお気に入りの場所について伝える際には、前時までに慣れ親しんだ語彙や表現、やり取りの中で気付いた、相手に分かりやすく伝えるための工夫を生かすことができるよう促していく。

**7時目** SRUの大学生から届いたビデオレターを視聴する。送ったビデオレターに返事が届くことで、相手に自分の思いが伝わったという達成感を得ることができる場面であると考えて。現地の大学についての紹介を見たり聞いたりすることで、日本と外国の違いにも気付くことができるようにする。

## III 研究との関わり

本単元の学習活動を通して、深い学びを実現する一途となるようにしたい。そこで、Small Talk と中間指導を手立てとし、T2Rサイクルに沿って、単元の全体を考える。

### 1 T2Rサイクル

本単元において、T2Rサイクル（図10）は次のように回っている。1時目から2時目まで、児童は、SRUの大学生に向けて、附属小についてどんなことを伝えたいか（図）、「附属小の魅力（いいところ）」はどんなところか考えながら活動に取り組んできた。そして、自分の伝えようとする思いはどんな表現や方法を使って伝えることができるのか、教師と一緒に考えた（【Think】）。

3・4時目は、実際に伝える相手のことを考えて、想定した場面や状況の中で試しながら、言語活動を行う場面である（【Try】）。実際のやり取りの中で、相手に分かりやすく伝えるにはどんな工夫が必要なのか振り返る（【Reflect】）。このサイクルは一方方向の過程ではなく、単元や一単位時間の中で、何度も行き来したりスパイラル的に循環したりすると考えている。分かりやすく伝えるための工夫を自分のやり取りで試したり（【Try】）、振り返りの中で教師や友達の工夫に気付き（【Reflect】）、次に生かそうと考えたりする（【Think】）児童の姿を目指している。



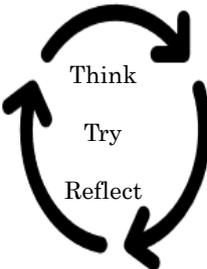
## 実践事例【第3学年】

### 1. 単元名「好きな色を紹介しよう」(Let's Try! Unit4 I like blue. 参照)

### 2. 単元について

本単元の目標として *Let's Try!1* では、友達と好きな色や形を伝え合うことを通して、自分の好きな色を伝えたり友達と自分の好きな色や形に共通点や違いを見つけたりするとある。このことを踏まえ、友達のことをもっと身近に感じたり、友達や自分の意外な面に気付いたりすることができる考えた。そして、英語を使う必然性をもたせるようにするためにALTや *Let's Try!1* にある **Let's Watch and Think** を用いて外国語の音を多く聞いたり、外国の虹といった文化に触れたりするようにした。児童の実態を踏まえ、本単元を通して「色や形を表す英語を使って、ALT や友達と『好きな色』を伝えて、友達のことをもっと知る」ことを目標に設定して、学習活動を進めた。

### 3. 主な学習活動の実際(全4時間)

	T2R サイクル	目標	主な活動	評価の観点		
				知	思	主
1	<b>Think</b> ↓↑ <b>Try</b> ↓ <b>Reflect</b>	・世界の虹の色についての情報を聞いて、色の表現に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Small Talk</b>: 「好きな色」ALT のことを聞いたり、教師の問いかけに答えたりする。</li> <li>・<b>What color do you like?</b></li> </ul>	聞		
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな色を使って自分のオリジナルの虹を描くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Small Talk</b>: 「好きな色」教師の問いかけに答える。</li> <li>・<b>What color do you like?</b></li> <li>・I like ○○.</li> <li>・世界の虹の色を聞いて、ワークシートに色を塗る。</li> </ul>			
3		・好きな色で描いた虹について自分の思いを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Small Talk</b>: 「好きな色」教師の問いかけに答える。</li> <li>・<b>What color do you like?</b></li> <li>・I like ○○.</li> <li>・<b>Let's Watch &amp; Think</b></li> <li>・<b>Activity</b></li> <li>自分が描いた虹を伝え合う。</li> </ul>	や	聞 や	聞 や
4		・相手の好きな色を探ったり、相手に好きな色を伝えたりして、相手のことを詳しく知ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Small Talk</b>: 「好きな色」ALT のことを聞いたり、教師の問いかけに答えたりする。</li> <li>・<b>Do you like ~?</b></li> <li>・Yes, I do. / No, I don't.</li> <li>・相手の好きな色を探る。</li> <li>・相手に好きな色を、理由を付けて伝える。</li> </ul>			

## 4 本研究との関わりについて

### (1) T2Rサイクル

本単元では、「友達の好きな色を聞いて、もっと友達のことを知ろう」と設定した。本単元では、**Small Talk** を取り入れて帯の活動として各時間に設定した。色の表現を主とした基本表現とし、好きな色を探る表現の慣れ親しみを行った。1時目に単元のゴールを提示し、チャンツを聞いたり教師のクイズに答えたりして色の表現に慣れ親しんだ。その後、「**What color do you like?**」と尋ねることで、自分たちが関心のある色を考えたり反応したりしていた (**Think**)。2時目には、「世界の虹の色の数」から外国の文化の違いに気付く活動を行った。そこでは、ALT が発する色の英語を聞いて、既習の数や本単元の言語材料である色に数多く触れ、日本と外国の虹の色の感じ方の違いに気付くことができた (**Think**)。その際、外国の虹の並び方を推測して活動に取り組むことができていた (**Try**)。児童の振り返りの中に、「虹は7色だと思っていたけれど、8色や2色のものがあった」「(色の数は違っても) どこも初めの色は赤色だった」と、数や色について気付きを書いている児童が多く見られた (**Reflect・Think**)。3・4時目は、慣れ親しんだ色を基にして、自分のオリジナルの虹を描いて伝えたり、友達に好きな色を探る活動を行った (**Think・Try**)。児童は、それぞれに探る方を試したり練習したりして、実際のやり取りに自分たちの伝えたいこと(好きな色や思い、理由)を考えて取り組むことができていた。

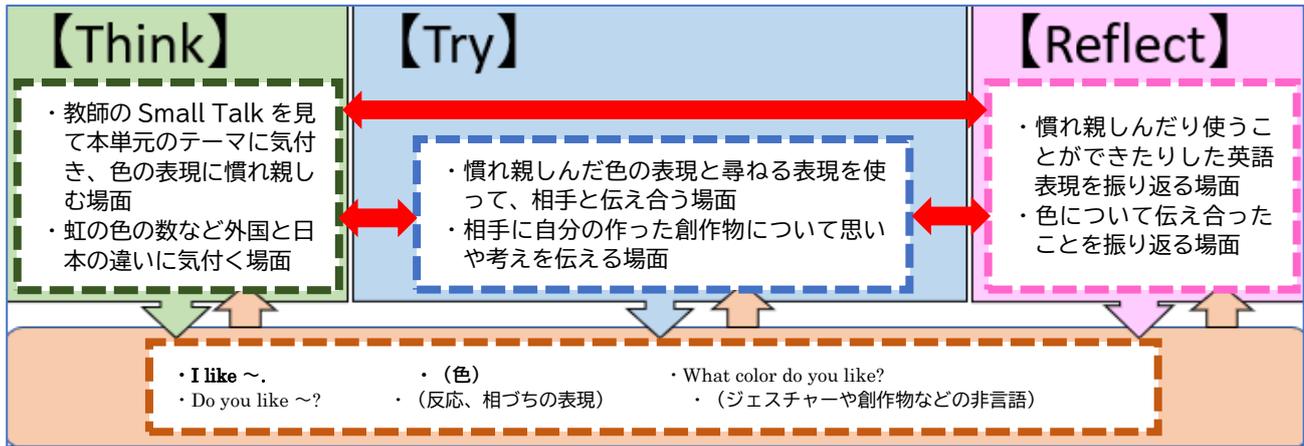


図 14 本單元における T 2 R サイクル

## (2) Small Talk

好きな日課をテーマに ALT と HRT のやり取りから児童に問いかけたり反応を促したりして行った (図 15)。4 時目だけではなく、それぞれの時間の初めなどに、本単元のテーマや本時で扱う色や尋ねる表現を使って教師の会話を聞くことを中心にした。その後、児童に問いかけて単元のゴールや今後の活動の基礎となる表現や態度を提示する意図で行った。Small Talk で使用する表現のイメージをもたせたり既習表現に慣れ親しませたりした。

T (JET) : (ALT), what color do you like?  
 A (ALT) : I like blue.  
 T : (間違った色の絵カードを提示しながら) Blue?  
 C (児童) : No! 違うよ!  
 T : (間違った色の絵カードを提示しながら) This?  
 C : No!  
 T : (青色の絵カードを提示しながら) Blue?  
 C : Yes!  
 T : OK. I see.  
 (C1 を指名して)  
 A : What color do you like?  
 C1 : I like yellow.  
 T : (黄色の絵カードを提示しながら) Yellow?  
 C1 : Yes.  
 (以下、省略)



図 15 第 3 学年の Small Talk の様子

## (3) 中間指導について

本單元では、好きな色について伝え合う活動の途中で中間指導を設定した。ここでは 4 時目を例として紹介する。

まず、伝え合う活動の初めに、どのように尋ねるとよいか問いかけた。すると、数名の児童が、「“What color do you like?”と聞けばいいんじゃない？」と答えた。それを聞いた他の児童も、それぞれに“What color do you like?”と口ずさんでいた。その様子から、やり取りを始めた。初めは友達ではなくワークシートを見ながら伝えていた。回数を重ねても、友達に伝え合っていないもののワークシートを終始見て尋ねたり、相手ではない他の友達や周りに目を向けてやり取りしたりしている児童が多くなった。そこで、中間指導を設定した。ここでは、最初に全体で共有したやり取りの場面を想起させたり、モデルとなる児童に問うたりして、やり取りする際の態度面について確認し、再度伝え合う際の態度について情報を共有した。児童は、「友達を見ながら」「指を指すなどして友達が分かりやすいように伝える」と言ったやり取りの基本的な態度について確認することができた。すると、中間指導以降の活動については、相手を見て丁寧にやり取りを行うことができていた (図 16)。



図 16 中間指導後のやり取りの様子

## 実践事例【第4学年】

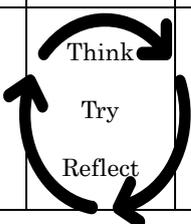
### 1. 単元名「留学生と好きな遊びで遊ぼう！」(Let's Try!2 Unit8 Let's play cards. 参照)

### 2. 本単元について

本単元の終末の活動として、5月末にアメリカ（スリッパリーロック大学、以下SRU）から来日した留学生と交流できる機会があった。そこで、「留学生を誘って一緒に遊ぶ」という目的をもち、児童が自信を持って自分の思いを伝えることをねらいとした。そのために必要な英語表現及びコミュニケーションの方法を、言語活動を通して友達と伝え合いながら確認し、単元のゴールへ向かうようにした。

本単元では、言語活動のゴールを「留学生を誘って一緒に遊ぶこと」とし、そこから逆向き設計で内容を組み立てた。SRUの大学生へ、好きな遊びを伝え、誘って一緒に遊ぶことを通して、相手を意識しながら伝えようとする思いを引き出すことができると考えた。言語材料として取り扱う、天気と遊びの言い方を使って、SRUの大学生に好きな遊びを伝えたり、遊びに誘ったりする実際のやり取りを通して、相手に配慮しながら思いや考えを伝え合う意義や楽しさを感じることが出来る単元である。そして、そのために必要な英語表現及びコミュニケーションの方法を、言語活動を通して友達と伝え合いながら確認し、単元のゴールへ向かうことができるようにした。この活動が、小学校高学年における外国語科での自己紹介をテーマにした単元へとつながっていく。

### 3. 主な学習活動の実際(全6時間)

	T2R サイクル	目標	主な活動	評価の観点		
				知	思	主
1・2・3	Think	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の見通しを持ち、遊びの言い方や自分の好きな遊び、相手を誘う表現に慣れ親しむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SRUの大学生との交流に向けて、4の3みんなが好きな遊びを調べて、天気ごとにランキングを</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージマップを広げ、留学生との交流会に向けて見通しをもつ。</li> <li>天気や遊びの言い方に慣れ親しむ。</li> </ul>	聞		
4・5	Think ↓↑ Try ↓ Reflect	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際にSRUの大学生を誘って学級みんなで遊ぶために、前時までに学習した遊びの言い方や、相手の好きな遊びを尋ねる表現を使って、好きな遊びについて伝え合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk:</b>好きな遊びについての話を反応しながら聞く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           How is the weather today?            It's sunny. It's little hot.            I want to play in the room.            Do you like playing cards?...         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きな遊びを伝え合い、天気別4の3好きな遊びランキングを作る。</li> </ul>	や	や	
6	 Think Try Reflect	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな遊びを伝え、SRUの大学生を遊びに誘うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SRUの大学生を誘って一緒に遊ぶ。</li> <li>単元の学習を振り返る。</li> </ul>		聞	聞 や

### 4. 本研究との関わりについて

#### (1) T2Rサイクル

SRUの大学生へ、好きな遊びを伝え、誘って一緒に遊ぶことを通して、相手を意識しながら伝えようとする思いを引き出すために、目的意識・相手意識を明確にした。【Think】の場面では、児童が本単元の学習に見通しをもって活動に臨むことができるようにした。「留学生を誘って一緒に遊ぶ」というゴールを目指し、天気の言い方や遊びの言い方を繰り返し聞いたり、声に出して言ったりして必要な英語表現に慣れ親しむ活動を多く取り入れた。【Try】の場面では、実際のやり取りの中で、相手に自分の考えや気持ちが伝わるか試していた。相手に配慮しながら思いや考えを伝え合う意義や楽しさを感じることが出来るようにするための手立てとして、言語活動の途中に中間指導を設定した。【Reflect】の場面では、児童が自分自身のコミュニケーションの様子や工夫について振り返った。相手に配慮した伝え方をしている児童を紹介し合い、工夫するよさを全体で共有することを通して、相手意識を一層高めながら交流することができた。

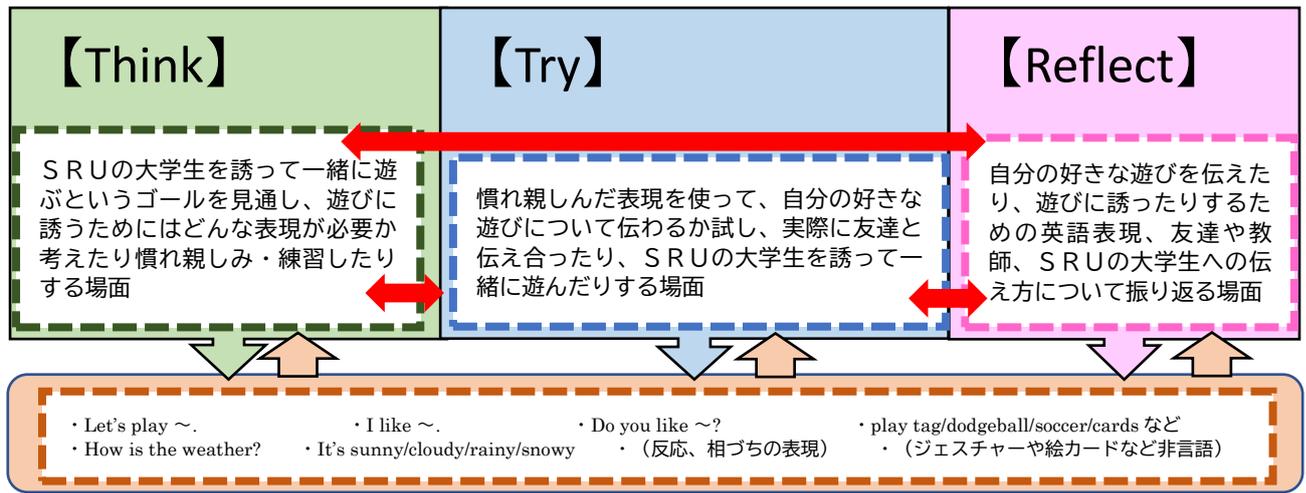


図 17 本単元における T2R サイクル

## (2) Small Talk

本単元では、「今日の天気」「好きな遊び」をテーマに毎時間 Small Talk を設定した (図 18)。教師同士のやり取りを見たり聞いたりする活動や、簡単な表現を用いて教師と児童でやり取りをするという形態で取り入れた。実施の際には、既習表現 “It’s ~ (天気の言い方)” “Do you like ~ (遊びの言い方)?” “I like ~ (遊びの言い方).” を繰り返し用いて話すことで、必要な英語表現に慣れ親しみ、児童が自分のやり取りの際に生かすことができるようにした。また、声の緩急やジェスチャー等を工夫することで、児童がどんな伝え方、反応の仕方が相手との対話をより良くするかということについて考えるきっかけとなった。表現に慣れ親しみ、対話を続けるヒントに気付かせることを積み重ねることによって、自信をもってやり取りができるようにする。

T (教師) : How is the weather, today? Is it cloudy?  
 S (児童) : No.  
 T : Is it sunny today?  
 S : Yes!  
 T : Good. Today is sunny. It is hot. I want to play in the room.  
 I like playing cards. Do you like playing cards?  
 S1 : Yes, I do. I like (playing) cards.  
 T : Oh, you like playing cards, too? Great!  
 It is very fun. How about you?  
 S2 : I like Uno.  
 T : Wonderful. You are a nice player. Thank you.



図 18 Small Talk の様子

## (3) 中間指導

言語活動の中で、中間指導を行っている。本単元では【Try】の場面において、実際のやり取りの中で、相手に配慮しながら思いや考えを伝え合う意義や楽しさを感じることができるようにするための手立てとして、児童同士のやり取りの途中に中間指導を設定した。中間指導は、①留学生を誘って一緒に遊ぶという最終的なゴールがあり、そのためにクラスの好きな遊びランキングを決めることから児童の意識を逸らさないようにする②よいコミュニケーションの様子を共有する③児童の困り感を共有・解消するという3つの目的に応じて行った。友達と自分の好きな遊びについて伝え合う活動では、自分の1番好きな遊びを伝えたいという思いをもち、ジェスチャーを使って1位、2位を工夫して表現している児童の様子を共有した (図 19)。ジェスチャーなどの非言語を交えると話が伝わりやすくなること、会話が続けて楽しさが生まれることに気付き、多くの児童が中間指導後の自分のやり取りに生かそうとしていた。児童がコミュニケーションにおいて工夫することのよさや楽しさに気付いていることを価値づける働きかけは、伝えたい内容を何とかして伝えようと粘り強く取り組む態度を養うことにもつながると考える。



図 19 中間指導の様子

## 実践事例【第5学年】

### 1. 単元名「友達のプロフィールカードを作ろう」

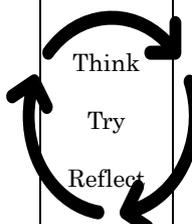
(New Horizon Elementary5 Unit2 When is your birthday?

Unit4 He can bake bread well.参照)

### 2. 本単元について

この単元を取り扱った5月は、新年度が始まって1か月ほど経ち、宿泊学習の事前準備に取り組んでいた時期であった。児童には「クラスの友達についてもっと詳しく知り、仲良くなりたい」という思いがあり、その思いを引き出すために、友達のことを詳しく知るためのプロフィールカードを作ることをゴールに設定し、活動に取り組んだ。児童の知りたいことは様々で、伝え合う活動に必然性が生まれた。また、友達のことを詳しく知るために尋ねたり答えたりする際には、様々な既習表現を用いてやり取りをする必要がある。相手意識をもち、様々な表現を用いて何とかして相手に自分のことを伝えたり、相手のことを聞いたりすることができるようになることを目指し、指導を行った。

### 3. 主な学習活動の実際(全6時間)

	T 2 R サイクル	目標	主な活動	評価の観点		
				知	思	主
1・2	Think	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の見通しをもつ。</li> <li>誕生日を尋ねたり答えたりする言い方や月・日付の言い方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の見通しを持ち、ゴールの活動を設定する。</li> <li>誕生日を尋ねたり答えたりする言い方や月・日付の言い方に慣れ親しむ。</li> </ul>	や		
3・4・5・6	Think ↓↑ Try ↓ Reflect	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と誕生日を伝え合うことができる。</li> <li>好きなもの、ほしいものなどについて友達と伝え合うことができる。</li> <li>友達のことを詳しく伝えるプロフィールカードを書くことができる。</li> <li>できることについて、友達と伝え合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b>:「ほしいもの」「好きな○○」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">           T1: When is your birthday?            T2: My birthday is January 28<sup>th</sup>.            T1: What do you want for your birthday?            T2: I want a new tie.            T1: Good. What color do you want?...         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と誕生日を伝え合う。</li> <li>好きなもの、ほしいものについて友達にインタビューをして伝え合う。</li> <li>集めた情報をもとに、プロフィールカードを作成する。</li> <li><b>Small Talk</b>:「できること」</li> <li><b>Let's Try②</b></li> </ul>	発書	や書	や書
7・8		<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のことについて、相手に伝わるよう工夫して紹介し合うことができる。</li> <li>友達を紹介するための言い方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b>:先生の紹介</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">           T1: Who is she? This is your teacher.            Her birthday is January 21<sup>th</sup>.            She likes playing badminton.            She wants new racket for her birthday...         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達のことについて紹介し合う。(他己紹介)</li> <li>ALTに、友達のことを紹介する。</li> <li>単元の学習を振り返る。</li> </ul>		発	発

### 4. 本研究との関わりについて

#### (1) T 2 Rサイクル

児童と設定したパフォーマンス課題から、「クラスの友達」という相手意識、「友達ともっと仲良くなるため」という目的意識を明確にした。「友達のことを詳しく知るができるプロフィールカードを作る」というゴールを見通し、友達について知りたいことを考え、インタビューの計画を立てる場面で、児童は既習表現を使って友達にどんな質問をするか考えていた(【Think】)。友達に尋ねたい内容を整理し、インタビューをし合う活動を行った場面では、お互いの好きなもの、ほしいものなどについて児童は必要な表現を使って伝え合うことができた(【Try】)。“What ○○ do you like?”の表現を使って好きなものについて伝え合った際には、○○の部分を変えれば、友達のいろいろな側面について尋ねられることを理解し、さらに話題を広げながらやり取りを行っていた。また、プロフィールカードを書きながら、伝え合う活動を振り返り、さらに聞き出したいことを見つけて追質問をする児童の姿も見られた(【Try・Reflect】)。友達のことを紹介

し合う場面では、作成したプロフィールカードを基に、友達のことについて、どんな順番でどのように伝えるか考え、教師や友達に紹介したり、相手の話を聞いて自分の伝え方を改善したりすることができた（【Think・Try・Reflect】）。

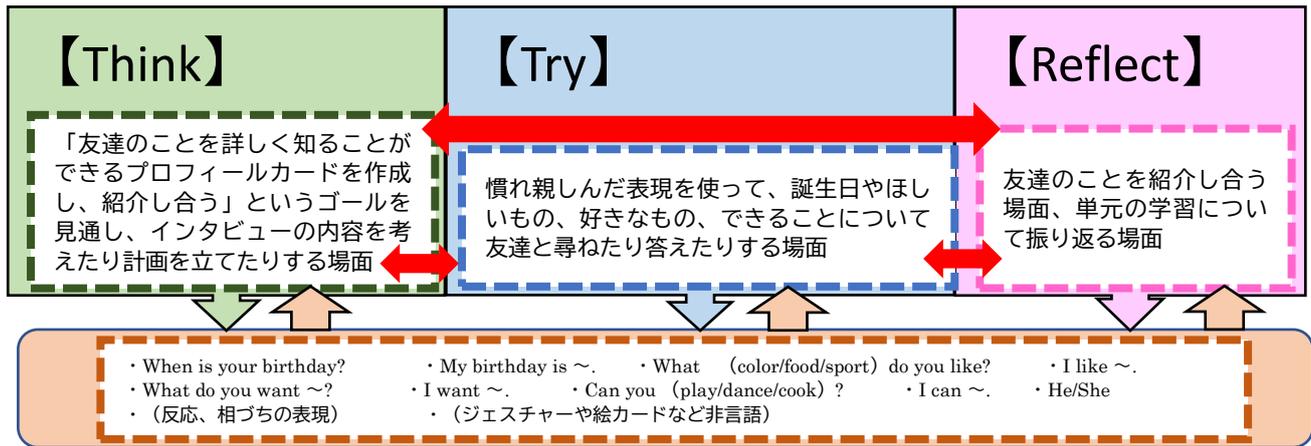


図 20 本単元における T 2 R サイクル

## (2) Small Talk

本単元では、「誕生日」「ほしいもの」「好きなもの」「できること」をテーマに Small Talk を設定した (図 21)。教師同士のやり取りを児童が見たり聞いたりする活動や、教師と児童、児童同士で簡単な表現を用いてやり取りをするという活動形態で行った。実施の際には、プロフィールカードを作るためのインタビューに必要な表現 “What ~ (color/food) do you like?” “I like ~.” “What do you want ~?” “I want ~.” “Can you ~?” “I can/can’t ~.” を繰り返し用いて話すことで、これらの定着を図った。また、会話の途中で既習表現を取り入れながら、対話を広げたり深めたりした。



T1: Can you cook?  
T2: Yes, I can. I can cook well.  
T1: Oh, you can cook well. What can you cook?  
T2: I can cook pasta.  
T1: Great. Let's talk with your friends “Can you ~?”  
S1: Can you play volleyball?  
S2: Yes, I can!  
S1: Good. Can you dance?...

図 21 Small Talk の様子

## (3) 中間指導

本単元では誕生日やほしいもの、好きなこと、できることなどについて伝え合う場面で中間指導を設定した。ここでは、①友達ともっと仲良くなるためにプロフィールカードを作るという単元のゴールから児童の意識が外れないようにする②相手を配慮した聞き方、伝え方などよいコミュニケーションの様子を共有する③友達に質問をしたい内容が伝わらない場面など、児童の困り感を共有・解消するという3つの目的に応じて行った。伝え合う中で、既習表現を使って友達のことについて積極的に尋ねたり答えたりする様子が見られたが、情報を集めたい気持ちが先行するあまり、相手の話を最後まで聞いたり、反応を返したりすることが疎かになっていた。これを踏まえ、中間指導において言語活動の目的を再確認し、相手の反応を確かめてから話し始めるよう提案した (中間指導の目的①)。指導後は、友達の話聞いて反応を返したり、追加質問をしたりする児童の姿が見られ、指導の内容を自分のやり取りに生かそうとしていた。相手の目を見て話を聞き、丁寧に反応を返したり、目を合わせて相手の反応を確かめながら発話したりするなど、よりよいコミュニケーションの様子を共有する (中間指導の目的②) ことで、友達のよさを取り入れようという意欲の高まりが見られた。やり取りを積み重ねる毎に、児童のコミュニケーションが改善されていく様子が見られた。

実践事例【第6学年】

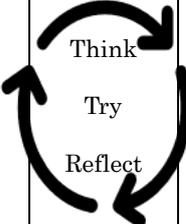
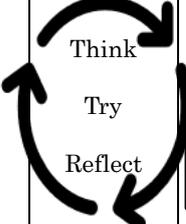
1. 単元名「おすすめの場所を紹介しよう」

(NEW HORIZON Elementary6 Unit3 Let's go to Italy. 参照)

2. 本単元について

本単元の目標として、自分の行きたい国やおすすめしたい国を考え、紹介することを通して、相手を意識して話したり聞いたりすることで、相手について再発見することができる考えた。そして、世界の国に目を向けることにより、自分の身の回りから世界という自分・自国の外に目を向けるきっかけになる単元になると考えた。そこで、前半のパフォーマンス課題を「コロナの状況も収まりつつあり、少しずつ海外に出かけることができるようになってきました。そこで、自分が行きたい国について、『見る』『食べる』『買う』の視点で友達に紹介しよう。」と設定した。更に、修学旅行の経験を生かし、ALTに長崎のおすすめを紹介するというもう一つの目標を設定した。それにより、学校行事と関連させて楽しかった思い出を想起させ、題材とすることで、より伝えたい、伝えてみたいという目的意識・相手意識をもつことを期待した。本単元では、ICTを活用してデモンストレーションで視覚的な情報を提示しながら紹介したり、振り返りやめあてを蓄積して確認したりするツールとして用いて活動を進めた。

3. 主な学習活動の実際(全8時間)

	T2R サイクル	目標	主な活動	評価の観点		
				知	思	主
1	Think ↓ Try ↓ Reflect	<ul style="list-style-type: none"> <li>おすすめの国の紹介を聞くことを通して、単元の見直しをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【パフォーマンス課題①】 少しずつ外国を歩き来できるようになってきました。そこで、おすすめの国を「見る」「食べる」「買う」の視点を使って紹介し</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b> :HRT が行ったことのある国やALT の出身国について内容を考えながら聞き、児童同士で合う。 Singapore is a small country. You can eat... America is a big country. You can see...</li> <li>イメージマップを用いて、パフォーマンス課題を共有し、学習を見通す。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※ 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。</p> </div>		
2・3・4		<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな国の紹介の内容を聞き取ることができる。</li> <li>自分の紹介が分かりやすくなるように、提示する資料を作成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b>:提示された食べ物について好みや理由などを尋ね合う。</li> <li><b>Starting Out</b> (1) 聞き覚えている表現を探しながら聞く。(2) 大まかな内容を聞き取る。</li> <li><b>Let's Try③</b> (1) 教師の例を聞き、紹介のイメージを持つ。(2) 自分のおすすめの国について提示資料を作成する。</li> </ul>	聞		
5・6		<ul style="list-style-type: none"> <li>“You can～.”を使って、自分のおすすめの国を伝えることができる。</li> <li>友達の紹介について反応しながら聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b> :「好きな日本食」を伝え合う。 What Japanese food do you like?</li> <li><b>Enjoy Communication(1)</b> Step1 自分のおすすめの国を紹介する練習をする。 Step2 共有したルーブリックを意識しながら、友達におすすめの国を紹介する。</li> </ul>	発	聞	聞
7・8		<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎のおすすめを紹介するために、修学旅行を振り返ったり補足する情報を集めたりする</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【パフォーマンス課題②】 ALTが長崎に行ってみよう。そこで、長崎のおすすめを紹介しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Small Talk</b> :「思い出に残る長崎で食べた物」 What Nagasaki food do you like?</li> <li><b>Enjoy Communication(2)</b> Step1 自分のおすすめの国を紹介する練習をする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※ 本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。</p> </div>		
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わるように、順序や内容を考えて伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Enjoy Communication</b> Step3 ALT を相手に長崎観光のおすすめを紹介する。</li> </ul>	発	発	

4 本研究との関わりについて

(1) T2Rサイクル

本単元ではパフォーマンス課題を2つ設定した。1つ目の課題では、教科書の表現や既習の“I want to go to ~.”を基本表現として活動を行った。そこでは、自分たちが関心のある国を決めて、see, eat, buy を用いて紹介するシートを作成し【Think】、友達に聞いてもらったり録音したものを自身で聞いたりして紹介の練習を行った【Try・Reflect】。それを繰り返し、実際に学級の友達に自分のおすすめの国を紹介していた。そして、2つ目の課題では、「おすすめの本国の紹介」（課題①）の活動を踏まえ、紹介の仕方や表現を参考にして課題の解決へ向かった。児童は6月に経験した修学旅行での長崎のフィールドワークやそれまでに調べた情報を基にして、「ALTにぜひ行って欲しい」という思いをもって考え、作成し（【Think・Try】）紹介することができた（【Try・Reflect】）。児童は、それぞれに自分たちの伝えたいことを考えて、伝わるのか試したり練習したりして、実際のやり取りや発表に取り組むことができた。

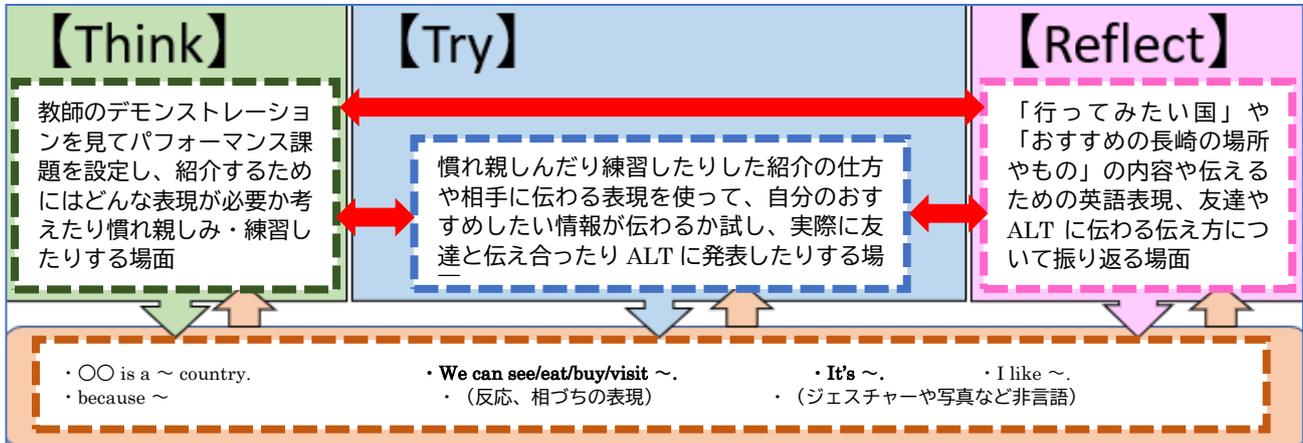


図 22 本単元における T2R サイクル

## (2) Small Talk

本単元では、本単元や本時に関わるテーマを基に3回の Small Talk を設定した。第1回目は、HRT が行ったことのある国や ALT の出身国をテーマに設定した（図 23）。本単元のゴールとしてのデモンストレーションの役割も兼ねて、教師の話の内容を考えながら聞き、その後、行きたいと思っている国について児童同士で聞き合うようにした。2回目、3回目では、児童が取り組みやすい「食」をテーマにして行った（図 24）。2回目では、まず、教師が3ヒントクイズを行い、それを答える活動を行った。そして、最後の答えの食べ物について、“Do you like ~?”で答えたり、その理由を尋ねたりする Small Talk を設定した。3回目は「好きな日本食」をお題にした。初めにALTとHRTがそれぞれ尋ね合い、その後“How about you? What Japanese food do you like ~?”と児童に問いかけ、児童同士で行うようにした。2回目・3回目ともに、ほとんどの児童は相手の方を向いてやり取りすることができていた。しかし、教師が提示した表現のみで伝え合って活動を終えていた児童もいたため、机間指導を行い、教師が“Why?”や“What ~ do you like?”など対話を広げたり、その答えの内容を深めたりするような問いかけを個別に行ったり、全体に向けてモデルとなるような対話の例を取り上げたりしてやり取りが続くようにした。



図 23 第1回目の Small Talk の様子



図 24 第2、3回目の Small Talk の様子

## (3) 中間指導について

特に5時目の中心活動では、観光や食べ物について説明する場面はどう表現してよいかという疑問や困り感が多く出た（中間指導の目的③）。そこで、既習の表現で言い換えられないか考えるように全体に尋ねたり、全体の前でHRTがALTに尋ねたりして解決するようにした。このことで、個別に言い換えを考えたり児童が直接ALTに尋ねたりできるモデルを提示するようにした。また、態度面においてできていない児童や不十分と感じられる児童のモデルとなるようなやり取りの様子を紹介した（中間指導の目的①）。それにより、その後の活動では、モデルのやり取りを真似しようとしていたりもっとよい（聞き手が分かりやすい）やり取りに取り組もうとしていたりする児童の取り組む様子が見られた。本単元では、「話すこと」の活動だけではなく、紹介のためのシートを作る場面（【Think】）でも中間指導を取り入れて児童が安心してやり取りや紹介ができるようにした。